

# 「能登・祭りの環」インターンシップによる学生の学びと地域貢献活動

団体名●池田ゼミナール、野外スポーツ部／代表者名●池田幸應(人間科学部教授)

## はじめに

奥能登地域においては過疎高齢化が加速し、地域コミュニティの存続可否が深刻な課題となっている。奥能登地域は、「キリコ祭り」が多く伝承されており、地方創生の視点からも、その継承及び次世代人材の確保・育成が重要である。石川県は、「学都」県であり、2011年3月に「能登キャンパス構想推進協議会」が設立・組織され、「能登・祭りの環」インターンシップ事業が推進されている。

## 活動内容

「能登・祭りの環」インターンシップ事業は、2011年度当初、「能登の祭り支援プロジェクト」としてスタートし、現在、「能登・祭りの環」インターンシップ事業として展開されている。奥能登2市2町の各1つの祭りが選定され、祭りへの参画を通じて学生たちの視点で奥能登地域の魅力を発信し、可能な範囲で地域課題への解決策に取り組まれている。

2019年度における対象の祭りは以下の4つである。〔穴水町「沖波大漁祭り」(8/14・15)、能登町「矢波諏訪祭」(8/15・16)、輪島市「黒島天領祭」(8/17・18)、珠洲市「粟津の秋祭り」(9/12・13)〕また、長期インターンシップ対象は、2019年度は珠洲市「馬縹の秋祭り」である。

本稿では、そのうち本学が中心的に参画している穴水町「沖波大漁祭り」の活動について記述する。

「沖波大漁祭り」は、沖波地区での海の安全と大漁を祈願し、神輿と5基のキリコが笛と太鼓にはやされて町中を夜中まで練り歩き、翌日は海中にキリコを担ぎ込み、勇壮に乱舞する昼夜通して見所のある祭りである。学生たちは、区長、祭り総代、5地区の青年団代表からなる「責任者会議」に参加し、祭りの段取りやコース、また継続的参加の学生への対応についても検討・確認された。また、地域住民と共にキリコ出し、キリコ組み立てにも参画し、その伝統的な組み立て方法や祭りについての言い伝えや手法について、古参の高齢者の方々から説明を受けた。キリコ祭り本番では、複数大学の当日参加学生の他、長期イン

ターンシップとしての事前から関わってきた大学コンソーシアム石川シティカレッジ受講学生及び池田ゼミナール学生、野外スポーツ部学生も参加した。



御朱印集めツアー（10月14日実施）

## 成果、結果の考察

参加学生は、能登の伝統文化である祭りについて実践的な学びの場であり、また他大学や地域の方々との交流の機会を得ることができる。また、地域側にとっても、担ぎ手として学生が参加すること祭りに活気が出る。特に長期インターンシップについては、学生が祭り開催の準備段階から地域に入り、地域住民への聞き取り調査等を通じ、学生を含めた地域外の人々が継続的に能登の祭りを支える仕組みづくりへ繋がっているものと考えられる。

## 今後の課題、展望

奥能登地域の過疎高齢化対策に、本事業が一助となり、また参加学生たちにとっての学びとなっている。しかし、県内外の複数大学連携・協働による更なる地域課題解決型施策が望まれ、本事業の継続・発展が必要である。